

# あの頃の西区・未来に残したい写真

## 西区の歴史再発見フォト応募写真集

たくさんの貴重なお写真のご応募、ありがとうございました。



【初日の出】  
(西区山の手2条7丁目) (H2.1.1)  
マンションの3階の窓から初日の出を撮影しました。  
手前にある平屋住宅は今はDCMホームックがあります。この平屋住宅がなんだったのか気になります。



【にしの 夢へのみち】  
(西区西野にし公園付近) (H3.8)  
公園付近の山道で幻想的な異次元につながっているような光景がレンズに浮かび、これは「夢へのみちだ」とシャッターを切った!



【ひなたぼっこ】  
(西野南公園) (H2.8)  
暑さ厳しいなか、子供が友達同士でひなたぼっこをしながら遊んでいるひとこま。



【寝台特急「北斗星」迂回運転】  
(発寒～発寒中央駅) (H12.5)  
かつて札幌と東京(上野)間を結んでいた寝台特急「北斗星」が有珠山の噴火により途中区間が不通となったため、普段は車両基地のある手稲-札幌間を回送列車として通る函館本線を営業列車として迂回運転された。



【ポプラの木】  
(琴似発寒川河川敷)  
西区に住んで40年ですが、その間マンションや住宅等が立ち並び西区に多くの人々が住むようになりました。いつも琴似発寒川河川敷を散歩しているとポプラ並木の中にひと際巨木でゴツゴツとしたポプラの木がいくつかあり目がいき樹齢を感じます。  
厳しい自然の中で静かに何十年の間、威風堂々と空に向かって立っているポプラの木に圧倒され歴史を感じさせます。



【生きるものすべて元気な西区】  
(琴似発寒川)  
凍てつく真冬の日。外を歩いていて、とても寒かったのですが、橋の上からこの光景を目にして心があたたかくなりました。  
凍って雪が積もった川の上に、いきものの足あとが点々と。姿は見えなくてもみんな今日も元気に生きている。0歳からずっと西区に住んでいます、ずっと離れられないほど西区はやっぱり良いところです。動物たちにとっても居心地が良い場所なのだ、ほっこりしました。



【なんの音? お神輿だ!!】  
(北海道脳神経外科記念病院前)  
お見舞いの為、まだ3歳の息子と地下鉄二十四軒駅から病院へ歩いていた時、どこからかお囃子が聞こえてきました。祖父(私の父)に逢いたい一心で、暑中、必死に沢山歩いていた息子にとって、病院直前でご褒美のように現れたお神輿でした。6歳になった息子は、今もお神輿を見たことを、とても嬉しそうに話しています。



【未来へと昇っていく西区】  
(山の手1条(ラッキー山の手店横道))  
早朝のキンと冷えた、車両通行のない時間を選定しました。西区の地形は三角山に向かって真っすぐ伸びる稀有な地形です。この自然の地形を後世に残していくという思いで撮りました。共感していただければと言うことを伝えたいです。



昭和33年より琴似で呉服店を営む「琴似角磯ハブタイ屋」様からの写真提供。  
当時の店舗前(琴似本通)の様子や琴似小学校の卒業アルバム(1964年卒)など、貴重なお写真のご提供がありました。



「ヤマチ産業株式会社」様より写真提供  
開業当時のヤマチホテルと琴似神社(S58.1)  
40年前から変わらず西区の街を見守っています。

### 【出典・参考資料】

「里の歩みそして夢」編集委員会 編(2007年)『かがやけトニ:里の歩みそして夢』、札幌市ほか(1993年)『さっぽろ文庫64:公園と緑地』、札幌市ほか(1981年)『さっぽろ文庫16:冬のスポーツ』、三角山と緑を守る会(2021年)『三角山と人々の歴史』、広報さっぽろ4月号(昭和47年4月号)、札幌市西区役所(1992年)『区制施行20周年記念:新西区のおいたち』、札幌市西区役所(2003年)『区制施行30周年記念誌:わたしたちのまち「西区」』